

子どもたちの“未来”のために市町村合併を  
実現させて21世紀のふるさとを創りましょう

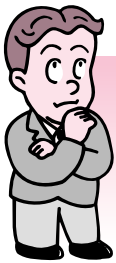


ちくま保育園（浅科村）

佐久の地に悠久の歴史を共有してきた私たちには  
先人たちの“**叡智**”と“**情熱**”が受け継がれています  
私たちは、未来を担う子どもたちに  
この大きな志を伝えていかなければなりません

“たくましさ”と“優しさ” “まちの絆”と“ひとの絆”  
今・・・真の地方の時代に立ち向かう

**21世紀の新たな文化発祥都市**への幕が開きます



# ～佐久の未来をともに考えましょう～



市町村合併は、真の地方の時代の実現に向けた果敢なる挑戦です。

国でも、県でもなく、**住民に最も身近なことは市町村が行う**  
これが地方自治の原点です。

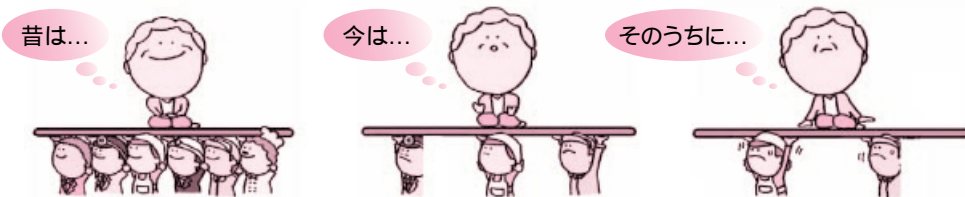
少子高齢化を伴った人口減少、住民生活圏の広域化、厳しい財政状況などの変化にいかに対応するかで、市町村間の行政格差は今後大きく広がってしまいます。

○現状の市町村体制では、“**できること**”が限られてしまいます

変革の時代に対応するために、市町村の行財政基盤を強化する必要があります。

## ◆少子高齢化 皆さんで力を合わせて支え合う必要があります◆

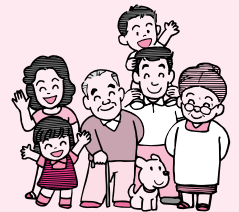
4市町村で見た場合、現在では2.9人の労働者(生産年齢人口)で1人のお年寄り(65才以上)を支えています。30年後は、1.9人で1人のお年寄りを支えていくようになります。  
小さな自治体ほど少子高齢化の問題は深刻です。



「顔の見える小さな自治体の方がよい」と言う方もいます。  
しかし、小さな自治体ほど財政の見通しが立たなくなっています。  
冷静に将来を見据えた議論の中で合併の是非を考えていかなければなりません。

4市町村の合併により、地域の特色を活かした広域的なまちづくりを行い、新市の区域で安定した行政サービスを提供できることは、住民の皆さんが受けることのできる「**合併のメリット**」です。

合併特例法の優遇措置を受けられる「**今**」だからこそ、住民の皆さんのために合併をする必要があります。



**いつの時代でも行政が目指すものは住民福祉の向上です**

時代の変化に応じて市町村の体制も変わらなければなりません  
真の地方自治実践のためには特例法期限内での合併が最後のチャンスです

**“未来”のために、市町村合併を実現させましょう**